

## はじめに

もう3年前になりますが、『みんなのねがい』（全障研出版部）から発達にかかわる連載の依頼を受けました。そのタイトルをどうしようかと、周りの人たちとも話しあい、「発達のなかの煌めき」とすることにしました。

「発達の煌めき」は、私たちの恩師である田中昌人先生（故人、京都大学名誉教授、全障研初代全国委員長）が折に触れて使われていた言葉ですが、そこに込めた想いをじっくりと伺うことはありませんでした。ただきっと、星のまたたきにつながるような大いなる自然の営みと、人間の発達という営みは深く結びついていることを思い描かれていたのではないかと思うのです。こうした発達という営みのもつ奥深さに畏敬の念すらもつと同時に、目の前の子どもや障害のある人びとがみせる、瞳の光や指先の動き、言葉にならない声の一つひとつに、もっともっと大切な意味、煌めきがあるのではないか、それを「明確なエビデンス」ではないと排除してしまうような「科学」観に私たちがいつの間にかのみ込まれていないか、もう一度、これまでに出会ってきた一人ひとりの子どもや障害のある人びとのこと、そして、そこにかげがえのなさを見出し愛しんでこられた家族や支援者のことを思い起こしながら、発達について考えたいと、このタイトルをつけました。

成長でも発育でもない発達という概念は、人間を外側から捉え、計測するだけでは見えてこない内的な営みの存在を抜きにして語ることはできません。言うまでもなく、発達の主体はその子自身です。親であれ、教師であれ、その発達を肩代わりすることはできません。つまり、その子自身が外の世界と交渉し、何らかの意図や感情を抱き、自分の身体や手指を使ってはたらきかけたり、外の世界を受けとめたりしながら、外の世界を創りかえ、さらには自分自身をも創りかえていく営みが発達なのだと考えます。その過程は、「見たいのに見えない」「伝えたいのに伝わらない」「わかりたいのにわからない」といった矛盾や葛藤も必然的に伴います。まさに私たちが、目の前の子どもたち、障

害のある人たちのことを理解したい、世界を共有したいとねがって、発達を学ぼうとする際の葛藤や矛盾と同じことが生じています。私たちはそこで悩み、ときに諦めたり逃げ出したりつつも、本を読んだり、悩みを言語化したり、子どもの姿を書き言葉で綴ったり、何よりも仲間や同僚と語りあうことで、その矛盾を越えようとしていきます。そして、少しでも、子どもの姿がみえてきたときに喜びや実践への手ごたえを感じ、また前に進んでいこうとします。それは、幼い子どもたちも、障害のある人びともみな同じだと思うのです。本書では、そうした矛盾を乗り越えていくプロセスにおいて、何がその原動力になるのかについても考えていきたいと思えます。その原動力は決して「ほめればよい」「(マイナスの行動であれば)無視すればよい」といった、外側からエネルギーを注入するようなものではなく、まさにその子のなかに生まれてくるものなのです。

本書では、「(子どもやなかまに)視座をうつす」「視座を転じる」ことの重要性を幾度も書いています。それは、上述したように、子どもや障害のある人を「対象」として客観的にみただけではみえてきません。その子、その人自身が何を思い、何に心を動かし、何をねがい、何とたたかっているのかを想像し、共感していくことが不可欠であると考えます。発達を理解する意義はまさにそこにあると言っていいでしょう。決して、あるものさしや枠組みに子どもをあてはめるのではなく、子どもやなかまの側から「みる」ために発達の理解が不可欠なのです。

それは決して簡単なことではありませんが、私たちもまた、ときに、この本を開いてくださった皆さんに視座をうつし、「対話」をするつもりで書き進めてきました。それぞれの職場や地域で、語りあい、学びあうための一助になれば幸いです。

白石正久・白石恵理子

はじめに ..... 3

第 I 部 生きる・つながる・発達する 9

第1章 生きる・つながる・発達する ..... 10

先生方、2年ぶりにお便りします／「発達の節」を乗り越えるとは／お母さんに謝りたい／縦糸に発達の道すじを、横糸に人間を大切にすることの

第2章 あなたといっしょに、もっと生きたい

—重症児教育と「生後第1の新しい発達の力」 ..... 16

『瞳輝いて』／乳児期前半の発達と「人を求めてやまない心」／人しり初めしほほえみ／年輪のふくらみ、あたたかさ

第3章 子育てを応援する地域づくり

—「新しい発達の力」が親、地域、社会を変える ..... 22

大津市における乳幼児健診の歴史から／「生後第2の新しい発達の力」の誕生と10か月児健診／大きな社会的連帯で子育てを応援する／先輩たちの思いを受け継いで

第4章 言葉の世界を拓く

—障害のある子どもといっしょに創る文化を通して ..... 28

本当に言葉を理解していないのだろうか／子どもをつなぐ文化のねうち／発達の主人公として「1歳半の節」を迎える／言葉の世界へ誘う責任をもって／おとな集団の響きあい

第5章 「本当の要求」とはなにか

—自閉症児と「1歳半の節」 ..... 34

コウジくんが「本当の要求」に出会うまで／「1歳半の節」と発達の連関／自分の意図と他者の意図の調整が難しい自閉症児／「本当の要求」とは

第6章 「みかけの重度」問題を考える

—「2次元の世界」を切り開く重症児 ..... 40

アヤちゃんと「給食の海苔」／「2次元の世界」の不確かさへの不安／「みかけの重度」問題と向きあって

第7章	成人期の「労働」から考える —その人らしさが「2次元の世界」を豊かにする	46
	作業所づくり運動のなかで／一人ひとりの労働観を探る／対の世界で揺れる／ 反抗と密着を繰り返しながら	
第8章	「…だけれども…する」と心をまとめあげていく —「2次元可逆操作期」の自分づくり	52
	一枚の絵から／「2次元可逆操作期」とは／「問題行動」は発達要求のあらわれ／ 友だちに必要とされる自分を感じる	
第9章	仲間とともに「だんだん大きくなる」 —「3次元の世界」を切り開く	58
	「ぼく、へたやから」／友だち大好きになる／新しい次元の自分へと「だんだん 大きくなる」／友だちとともによりよくありたいねがい	
第10章	導き、導かれる関係のなかで自分を育てる	64
	『夜明け前の子どもたち』から／導き、導かれる／学部を越えたつながりのなかで／ 「違い」をくぐって「同じ」に気づく	
第11章	自分を客観的にみる「9歳の節」	70
	ケイタさんのこと／リレーの取り組みで／先生についてきてほしい／学級集団を 育むということ／集団もまた、揺れながら発達していく	
第12章	「社会」のなかで自分をつくる —「9歳の節」と集団のなかでの自己	76
	「自分のことを書いてください」／「社会」のなかにある一人の自分／「お互いに 苦しいこともあるよね」／私たちも発達の道を歩いている	

第Ⅱ部 解説のページ  
学びあい、語りあうために 83

第1章	発達とはなにか	84
	発達の学習に王道はない／発達とはなにか／「発達段階」と「発達の節」／ 「可逆操作の高次化における階層-段階理論」	

第2章	乳児期前半の発達の階層-段階	92
	発達の階層と3つの段階／「回転可逆操作の階層-段階」の特徴／発達段階から 発達段階への移行／ハルちゃんの発達と教育から学ぶ	
第3章	乳児期後半の発達の階層-段階	102
	「連結可逆操作の階層」とは／「連結可逆操作の階層」への飛躍的移行／「連 結可逆操作の階層-段階」の特徴／発達段階から発達段階への移行／子育てを 「自己責任」にしない	
第4章	幼児期の発達の階層と「1次元可逆操作」の世界	114
	目的（つもり）をつくって行動する／相手の目的（つもり）にも気づく／「… ではない…だ」／指さしやことばなどによるコミュニケーション／変化する素 材と道具の発達の意味／幸福感においてつながる	
第5章	「2次元の世界」を開く	132
	「次元可逆操作の階層」の3つの段階／「2次元の世界」を開く／「…してか ら…する」2次元の構成と自他の領域の分化	
第6章	機能障害の重い子どもの発達理解	138
	「みかけの重度」問題について／機能の障害の重い自閉スペクトラム症と「み かけの重度」	
第7章	「2次元可逆操作」の世界	144
	「2次元可逆操作期」の特徴／知的障害のある成人期の方たちのこと／誇りあ る自分を育んでいく発達の土台	
第8章	「3次元可逆操作」の世界	156
	「3次元の世界」を開く／「導き、導かれる関係」のなかで自分を育てる	
第9章	「9歳の節」への飛躍	166
	「3次元可逆操作」への発展／「9歳の節」—「1次元変換可逆操作」へ	
おわりに		181

題字揮毫 竹内小梅  
カバー絵 服部杏蒔  
スズランイラスト illust AC

本書のなかでしばしば引用し、参考にしている2冊のご紹介。

白石正久・白石恵理子編

『新版 教育と保育のための発達診断 上 発達診断の基礎理論』

(文中では『発達診断・上』と略記)

- I 子ども・障害のある人たちの権利と発達保障／玉村公二彦
- II 発達理論と教育・保育の実践／松島明日香
- III 発達の質的転換期とはなにか——その発見と実践研究
  - 1章 乳児期の発達段階と発達保障／白石正久
  - 2章 1歳半の質的転換期と発達保障／白石恵理子
  - 3章 4歳の発達の質的転換期と発達保障／張 貞京
  - 4章 7歳の発達の質的転換期と発達保障／川地亜弥子
- IV 障害と発達診断
  - 1章 自閉スペクトラム症と発達診断／別府 哲
  - 2章 重症児と発達診断／白石正久
- V ライフサイクルと発達診断の役割
  - 1章 早期発見・早期対応と発達診断／小原佳代・西原睦子・高田智行・高橋真保子
  - 2章 学校教育と発達診断／櫻井宏明
  - 3章 成人期実践と発達診断／白石恵理子

『新版 教育と保育のための発達診断 下 発達診断の視点と方法』

(文中では『発達診断・下』と略記)

- I 発達保障のための子ども理解の方法／木下孝司
- II 発達の段階と発達診断
  - 1章 乳児期前半の発達と発達診断／河原紀子
  - 2章 乳児期後半の発達と発達診断／松田千都
  - 3章 1歳半の質的転換期の発達と発達診断／西川由紀子
  - 4章 2～3歳の発達と発達診断／寺川志奈子
  - 5章 4歳の質的転換期の発達と発達診断／藤野友紀
  - 6章 5～6歳の発達と発達診断／服部敬子
  - 7章 7～9歳の発達と発達診断／楠 凡之
- III 「発達の障害」と発達診断／白石正久

全国障害者問題研究会出版部の刊行です

ホームページ [nginet.or.jp](http://nginet.or.jp)



## 第 I 部

# 生きる・つながる・発達する



(羽田千恵子さん 制作)